

会 議 議 事 録

会 議 名	第2回 学校関係者評価委員会	東京工科自専門学校品川校
開催日時	平成 26年 2月 5日 (水) 18時 ~ 20時	
会 場	東京工科専門学校品川校 26教室	
参 加 者	委員	8人 (参加者) 織戸 幸正 、 甲斐 俊和 、 根本 淳一 成田 仁 、 保科 義和 、 坂内 富士子 金子 秀子 、 五十嵐 由美子 (欠席者) なし
	事務局	3人 竹尾 和也 、 太田 亨 、 佐藤 文夫
会 議 録	<p>1. 開会挨拶 (品川校：竹尾校長 、 委員長：織戸) 職業実践専門課程について(竹尾) 学校を良くする意見を出せる場所としてご協力をお願い致します。(織戸)</p> <p>2. 自己紹介 今回、初参加の方もおられるので、簡単に各委員の自己紹介を行った。</p> <p>3. 職業実践専門課程の進捗状況報告 (竹尾) 前回 (第1回) 議事録の確認</p> <p>本題 進行・議長： 委員長 織戸</p> <p>4. 「平成24年度版自己点検報告書」に関する意見交換 (議長) 報告書を再度見て頂きながら、前回の続きの議論を押し進めたいと思います。色々なご意見がありました、非常に気になっておりました‘離職率’について少し進めませんか。よろしければ、皆様のご意見をお願い致します。</p> <p>【議題：離職率】 (根本) 整備の現場と学校での授業内容が、少し乖離しているように思います。即戦力の教育になっていないと感じます。基礎知識も重要ですが、更に現場で必要とされる知識・技術教育も重要と思います。</p> <p>竹尾：基礎知識とは、何をさしている？国土交通省の規定の実習：講義時間数の中で、基礎作業を繰り返す授業も組めますが、土・日曜日をお休みにして多くの時間は割けないのが現状です。2級課程は、2年間が整備基礎とも言えます。</p> <p>(甲斐) 学校に求めるものとして、基本をしっかり学ぶ事こそ大事だと考えていま</p>	

す。座学中心の教育（2級国家試験に合格する為の教育）である事は、理解していますが、ネジ1本を正確に締める事が出来る事が大事です。離職の原因として自分の居場所がなくなる。と言う状況があります。基本的な仕事として車検作業（12か月点検でも良い）だけでも、自分で自信のある出来る作業として、学校で身に付けさせる事で、入社してからの居場所が出来る。即戦力を望みたいところですが、実際は新入社員には、1から教育する社内技術研修制度がありますので、ブレーキの整備が出来ると言うような1つの自信を持たせる実習をお願いしたい。

（成田）学校に何を求めているか。と言うと、人材＝テクニシャンの技術もありますが、ビジネスパーソンとしての素質、コミュニケーションの素質向上を望みます。キャリアパス（管理職まで伸びるための基礎教育を望む）（コミュニケーション能力）最低限のビジネスパーソンでないと、離職につながるケースがあります。

竹尾：どんな事を若い時に植え付ければ、将来伸びるのか。授業の中で利益、アワーチャージの話はしています。

竹尾：コミュニケーション能力を伸ばす為に、3つの聞く、聴く、訊く、の話をしています。

（成田）座学の中で、ディスカッションする場面はありますか。

竹尾：プロジェクトセミナー（グループ学習）科目で強化しています。

（成田）整備学校として最低限は、資格取得ですが付加価値として人間性を求めます。その為に学校が出来る事は？

（坂内）土日に開校し、繰り返してトレーニングできればそりゃいいですよ。やりたい若者にとっては、ありがたいです。

竹尾：マネージメントや経費的に問題はあります。グループ校との繋がりもあるので検討か必要。

（織戸）3年以内に離職したデータは、ありますか。

竹尾：現在は、ありませんが、過去に経験があります。少ない情報ですが離職の原因としては、人間関係が多いと聞いています。

（成田）それは、受け入れ側の原因？ 学生さんの原因？を産学双方で調査し、研究すれば、対策案が見つかるかもしれません。

竹尾：「就職プログラム」科目の時間に対策は出来ると考えています。

（織戸）土日のインターンシップ（アルバイト？）は、有効だと思います。

（織戸）PTA側より、社会貢献等のご意見をお願い致します。

（坂内）社会貢献についてよりも、今までの離職のお話に興味がありますね。是非データを取ってほしいですね。

（織戸）改善策は何か考えられますか。

（織戸）人間関係をどうやって築いてゆくか。

（金子）息子は、整備のことだけを考えて整備学校を選び入学した。企業の方の授業を受ける事も良いが、就職活動する前に色々な企業を経験する機会がほしい。子供が何をしたいのか？自分なりの目標が決まり、それに向かって

歩むことができれば人間関係等は些細なことに感じ、離職率も低減できるのではないかと思います。

(五十嵐) 離職率の件で提案ですが、学校主催の意見交換会の場を開催してほしい。卒業生と先生そして、現役の学生のコミュニケーションの場 OB の声を取り上げよう (同窓会) テーマ: 離職率低下させる為の意見交換等

竹尾: ●離職調査は必要だと感じています。グループ校もありますので、計画的に検討して行きたいと思います。

●インターンシップについては、企業側がご支援いただけるのであれば、是非実施して行きたいと考えます。

●同窓会について、現在、学園祭だけで実施しています。学校主催の意見交換会を夏休みにまず1回開催を企画いたします。(H25年度卒業生を呼んで)

【議題: 地域連携】

(保科) 地域連携について

●地元の祭りの参加 (土日) まず、6月の第1週目の金・土・日に開催する事が決定しています。

町会としては、南の外れに位置している為に交流が少ないのが現状です。盆踊り (7月最終の金・土・日) にお店を出してもらおう。また、神輿を担ぐと交流を深めるには手っ取り早いと思います。

土日のお休みに出てきて参加も難しいとは感じますが、若い方の参加を期待したい。

●防災について・・・10月の日曜日 品川区総合防災訓練 (城南小学校の校庭) 高校生の参加がありますが、一度参加されて検討して行きましょう。

竹尾: 3・11以降、防災については、品川校としては改善を行っています。しかし、地域の防災の取り組みに是非参加させていただきます。

今後も地域貢献は、出来る事を一つ一つチャレンジしてまいります。そして、この場で報告させて頂き、評価して頂き改善して行きたいと考えております。

《委員長まとめ 確認事項として》

* 離職率調査を学校側へ依頼

* 同窓会の開催を依頼

* 地域交流の場のお祭りと防災訓練への参加を依頼

以上



平成 25 年度

第 2 回 学校関係者評価 結果

(学校関係者評価委員会実施日:平成 26 年 2 月 5 日)



学校法人 小山学園
東京工科専門学校品川校

1. 結果

本校は、平成 26 年 2 月 5 日に「平成 25 年度第 2 回学校関係者評価委員会」を開催いたしました。

第一回委員会と合わせて結果を以下にまとめます。

(1) 概要

本委員会では、前回(平成 25 年 11 月 12 日)開催された第一回学校関係者評価委員会での意見について平成 25 年度本校の事業計画における取組みと現状の評価、今後の取組みの考え方について説明を行った。これにより、平成 24 年度自己評価の各項目の取組みについて問題はないことの確認が行われた。さらに、次年度以降の取組みについて意見交換を行い、中長期的な課題として 26 年の学校関係者評価の継続課題とした。

(2) 結果

大項目		
基準 1 教育理念・目的・ 育成人材像	平成 24 年度自己評価	3.8/4.0
	第 1 回学校関係者評価	<p>小小学園の教育理念や目的、育成人材像の重要性に関しては、教職員に十分に浸透しており、その実践においてもおおむね満足できる取組みがなされている。また、各学科の教育目標、育成人材像を正しく方向付けるための一連のプロセスにおいても適切に構築されている。</p> <p>一方、環境の変化に対応するための将来構想に関しては、今後も社会等の動きを見極めて柔軟に対応する必要がある。</p>
	上記指摘を踏まえた 学校の対応	上記で課題となっている将来構想に関しては、科を超え全校を含めた学園としての取組みとして、校全体で長期的に取り組んでゆく。
	第 2 回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。
基準 2 学校運営	平成 24 年度自己評価	3.4/4.0
	第 1 回学校関係者評価	<p>学校運営方針や事業計画については明確に定められており、設置法人や学校そのものの運営に関しても寄付行為や規定類により適切に運営されている。一方、専門学校教育を取り巻く環境は日々変化しており、柔軟性かつ迅速に対応できる体制を整える必要がある。</p>
	上記指摘を踏まえた 学校の対応	上記で課題となっている柔軟性かつ迅速に対応できる体制整備に関しては、科を超え全校を含めた学園としての取組みとして、校全体で長期的に取り組んでゆく。
	第 2 回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。
基準 3 教育活動	平成 24 年度自己評価	3.8/4.0
	第 1 回学校関係者評価	<p>教育目標の設定や成績評価の仕組み、教員組織等はおおむね満足できる水準に達している。特に教育方法や評価に関しては組織的に取り組んでおり教育の質保証に関しても、コマシラバスや授業シー等の独自の取組みもあり評価できる。</p> <p>今後の課題としては、自動車産業の技術革新や業態の変化に対し、産業界の人材ニーズがさらに高い教育の質を望むばかりではなく、内容も変化することも考えられるため、教育課程の編成に関しさらに研究を続けるとともに、優れた資質を有する教員を確保すること努力が必要である。</p>
	上記指摘を踏まえた 学校の対応	上記で課題となっている自動車産業の技術革新や業態の変化に対し、産業界の人材ニーズが変化していることに対応した教育課程の編成見直しについては、教育課程編成委員会でも企業の委員から具体的な指摘を受けており、特に自動車技術の進歩に対応した新技術の教育内容の見直しおよび職業人としての必要な社会人基礎力の醸成について、学校内部で検討を進める体制づくり等組織的な取組みを行う。
	第 2 回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。

基準4 学修成果	平成24年度自己評価	3.3/4.0
	第1回学校関係者評価	就職については、自動車業界の幅広い分野から求人があり、学習成果が業界のニーズに結び付いていることが窺える。また、早期内定や高い就職率など満足できる水準に達していると考えられる。資格・免許取得率の向上に関しては、現状に留まることなく、さらに高い目標を目指しさらなる施策を講じることを期待する。また、卒業生の動向調査については十分に実施されているとはいえないため、今後は組織として体制を整えていく必要がある。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題となっている卒業生の動向調査については、後援会企業を中心とした情報収集や同窓会活動の活性化により卒業生とのパイプ強化を進めているが、成果が出るまでは時間がかかる問題も多い。長期的な取り組みとして継続してゆく。
	第2回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。
基準5 学生支援	平成24年度自己評価	3.3/4.0
	第1回学校関係者評価	就職支援や保護者との連携についてはおおむね満足できる水準に達している。一方で、毎年僅かながら退学者が発生しており、人間性を含む対応力強化、解決策の共有などについて、なお一層低減に努力する必要がある。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題となっている退学者の低減に向けた個々の学生に対する指導については、教員側の指導の進め方の情報共有を目的とした「学生指導データベース」のさらなる有効活用を行い、タイムリーな学生対応を進めてゆく。 また、自動車業界の情報を提供するため、企業と連携し講演会、企業見学、インターンシップの充実を進めてゆく。
	第2回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。これらの取り組みには、教員自体のスキルアップが必要であり、企業側もその機会提供に対して協力する。
基準6 教育環境	平成24年度自己評価	3.3/4.0
	第1回学校関係者評価	施設・設備・教育用具等は、おおむね満足できる水準に達している。また、学外実習・インターンシップ・海外研修等への取り組みに関しても、おおむね満足できる水準に達している。一方、防災面に関しては、施設面での問題は無いが、緊急時の避難を想定した訓練および連絡体制などにおいては、さらに備えを充実することを検討すべきである。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題となっている緊急時の避難を想定した訓練および協力体制の構築については地域との連携をもって進めてゆく。また学生および教員の連絡体制などについてはITを用いた情報提供システムを有効に活用したい。
	第2回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。
基準7 学生の募集と受入れ	平成24年度自己評価	3.5/4.0
	第1回学校関係者評価	学生募集活動に関しては、コンプライアンス上は適切な運営が行なわれている。 一方で、入学定員は充足できていないことから、上記に掲げた優れた教育活動やその成果などの情報発信提供方法を改善していく必要がある。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題となっている教育内容の情報発信については、学園の広報本部と連携して教育活動及びその成果を伝えるとともに発表会などの場に参加を広く呼びかける等の積極的な施策を進めてゆく。
	第2回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。
基準8 財務	平成24年度自己評価	3.6/4.0
	第1回学校関係者評価	財務に関しては、財務基盤、予算収支計画、監査の各項目に関して問題ない。なお、財務情報の公開に関しては、第2回学校関係者評価委員会までに実現することを確認した。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題としていた財務情報の公開については、平成25年12月5日にWebサイト上で公開した。
	第2回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。

基準 9 法令等の遵守	平成 24 年度自己評価	3.1/4.0
	第 1 回学校関係者評価	法令等の遵守に関しては、法令遵守、個人情報保護、学校評価の各項目に関して問題ない。教育情報の公開に関しては、第 2 回学校関係者評価委員会までに実現することを確認した。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題としていた「自己評価報告書」の公開については、平成 25 年 12 月 5 日に Web サイト上で公開した。
	第 2 回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。
基準 10 社会貢献・地域貢献	平成 24 年度自己評価	2.8/4.0
	第 1 回学校関係者評価	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献については、企業との連携も図り環境やエネルギー問題に対する取組の一環として、エコドライブシミュレーターの公開、実施等を行ったことに評価は頂けた、しかし地元町内会の活動、および地域の子供たちを対象とした行事へのスタッフなど、高齢化する地元社会において若い学生の参加がもう少しあると助かるという言葉を受け、今後の課題にしてゆく事とした。 修学旅行生に対する体験授業等の実施など積極的に実施していることは評価できる。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記のように一定の評価を受けているが、次年度以降は学校関係者評価委員の地域委員からの要望である「高齢化する地域住民の防災体制構築」に対し学校としての参画をしてゆきたいと考える。
	第 2 回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。

以上